

### 第3回県央地域懇談会

#### 「沿線地域とともに繁栄を目指して」～県央エリアと小田急グループのこれから～

4月24日（金）、ロワジュールホテル厚木に約90名が集まった。冒頭、高橋会長より、県央巡回型の地域別懇談会について、これまで産学公の連携やオンリーワン技術を持つ中小企業をテーマに蓄積してきた経緯を紹介、また百年に一度の経済危機にも触れ本日は各産業（例：車と鉄道等）の連携等により、地域が「元気」になるお話しを期待したいと挨拶された。

講演会では、県央地域を縦横に結ぶ鉄道業者として、又、傘下のグループ企業と共にこの地域の大動脈としての役割を果たしてきた小田急電鉄の大須賀社長にこの地域の発展の歴史的経緯を振り返り、今後の目指すべき方向や展望を率直に、大胆に語って戴いた。

#### 講演概要

##### 1. 小田急グループの紹介

設立は昭和23（1948）年6月1日、東京新宿を起点に小田原まで乗り入れている。また東京メトロ千代田線への乗り入れや多摩線等がある。1日平均約195万人、年間約7億人を輸送している。運輸業を始め、流通業、不動産業等の事業を展開している。戦後の昭和20～30年にかけて春闘の時は「ストない小田急」と言われた。その背景には「おらが鉄道」の精神があり良き伝統になっている。

##### 2. 県央エリアと今後について

企業の業務集積や大学も多い、上りも下りも需要があるのが特徴。また沿線が自然に恵まれている。しかし今後はかつてのような高度成長期は期待できない。県央エリアは10万人/日超の乗降人駅が3つあり、本厚木は約15万人/日である。乗換駅でない場合の全国でもトップである。（相模原が約12万人、海老名が約14万人）街の成長と鉄道の発展は一体。常に地元自治体と情報交換が必要。研究所、大学、大型商業も充実、観光（海、山、自然）もある。生活に必要な条件が全て整っているところが強みで、コンパクトな街づくりのモデルになるのではないかと。また街が発展し生活が向上しても治安が悪ければ魅力が下がる。官民が一体となって治安維持に取り組む必要がある。我々は沿線地域とともに繁栄を目指して行きたい。



小田急電鉄（株）締役社長 大須賀氏

#### 質疑応答

Q1：駅前のインフラ（電気自動車の共同利用プール等）について、県央にモデルみないなものが出来ればいいが、具体的な活動はあるのか？

A1：具体的活動はまだないが、自治体と一緒に「街づくり」だと言うことで検討する（入り込む）ことが大切と考えている。一体となって本気でやる時代が来ていると思う。

Q2：「安全・安心は最大の使命であり、テーマである」に感心した。車中の中吊りで「社員教育」を見たことがあり、安全・安心に繋がっていることが理解できた。是非今後も社員教育をPRして戴きたい。

A2：小田急は元々観光輸送が多かった。どのようにして「お客様」をご案内するか、「お客様を意識する文化」が出来ている。

Q4：箱根エリアの発展について戦略を聞きたい。

A4：箱根は7割が自動車のお客様、山の中・入口のところ、外から入ってくるところに「モータープール」を作ってそこから公共輸送を使う等にするとありがたい。また外国の方にも分かりやすい、回遊し易い整備の仕方を研究して行きたい。

#### 地域活性化委員長 早川氏 閉会挨拶

県央の交通の要である小田急（株）が都市とともに発展してきたことを知った。またこれから「環境」とともに地域がどう変わって発展して行くべきか良い勉強になった。この巡回型の地域懇談会の活動を通じて更にネットワークを拡大し「地域を元気づけて行きたい」と委員長としての力強い抱負を表明され講演会を締め括られた。